



[今月の聖書]

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」 (ヨハネ 3:16)

「主よ、あなたはわたしを探り、わたしを知りつくされました。あなたは後から、前からわたしを囲み、わたしの上にみ手をおかれます。わたしはどこへ行って、あなたのみたまを離れましょうか。わたしはどこへ行って、あなたのみ前をのがれましょうか。わたしがあけぼのの翼をかって海のはてに住んでも、あなたのみ手はその所でわたしを導き、あなたの右のみ手はわたしをささえられます。あなたの目は、まだできあがらないわたしのからだを見られた。わたしのためにつくられたわがよわいの日の／まだ一日もなかったとき、その日はことごとくあなたの書にしるされた。神よ、あなたのもろもろのみ思いは、なんとわたしに尊いことでしょうか。その全体はなんと広大なことでしょうか。わたしがこれを数えようとすれば、その数は砂よりも多い。わたしが目ざめるとき、わたしはなおあなたと共にいます。」 (詩篇 139:1、5、7、9、10、16、17、18)

「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。」 (第二コリント 3:18)

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。」 (第一ヨハネ 4:10)

「あなたは、子に賜わったすべての者に、永遠の命を授けさせるため、万民を支配する権威を子にお与えになったのですから。永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることあります。」 (ヨハネ 17:2、3)

お元気でお過ごしでしょうか。今月は希望の言葉まる④「神の愛」と題してお話いたします。先月は受難のキリスト、また復活のキリストを深く思いました。このキリストの姿は罪深い私たちに寄り添ってくださり、犠牲となってくくださり、落胆して歩むものに伴ってくださるお方を意味しています。一言で言うならばイエスキリストは我らの最良の友であります。イエス・キリストが指し示している神様もまた、私たちを愛し、私たちに寄り添い、私たちのためにあらゆる犠牲を払い、私たちを救いだし導こうとしてくださるお方です。神の愛は三つのヘブル語によく表されています。①インマヌエル「神共にいます」、②シャローム「平安があるように」、③ハレルヤ「神に栄光」。聖書の神の愛は人間の愛のように、愛の証や行為の前に愛の存在があります。神ご自身が愛なのです。神様は今日もあなたと共にいてくださいます。現実生活の厳しい苦悩と動揺の中にあっても、常に平安を与えてくださいます。そして人間の究極の目的は神の栄光を表すことですが、罪深い人間にもかかわらず、ついに神の栄光を表す働き的一端を担うことができるのです。一言で言えばハレルヤとすることばで一生涯を完成させてくださるのです。この神の愛のうちに生きることこそ私たちの幸せなのであります。

(お知らせ)

* 地区集会のご案内

5月14日(火) 13:00 CFI 横浜集会 (福音喫茶メリー TEL 045-231-6773)

5月15日(水) 11:00 水曜礼拝、14:00 ジョイコーラス (自由が丘チャペル)

* 5月11日(土) 16:00 東日本大震災復興支援超教派一致祈祷会 (淀橋教会)

* 5月16日(木) 11:00 バイブルアカデミー (自由が丘チャペル、受講料 3,000 円)

* 6月4日(火) 13:00 CFI 千葉集会 (東天紅千葉駅前センシティタワー22F TEL043-238-5555)

* 6月7日(金) 13:00 関西集会 (大阪聖パウロ教会)

◆◆◆ C F I 会員 投稿原稿 第 67 回 ◆◆◆

「深みに漕ぎ出して」

謝花 寛営 (沖縄県)

「深みに漕ぎ出して漁をしなさい。」(ルカ 5 : 1 ~ 11)

人間は、齢を重ねるだけでは老いるものではない。サムエル・ウルマンの「青春」という詩があります。齢を重ねただけでは人は老いない。理想を失うときはじめて老いる。という内容の詩です。理想を失うとき人は若さを失うのです。そして新しいことに対するチャレンジです。

何故ペテロはイエスを信じたのか。

今回の聖書の言葉は、漁師であるペテロがイエスの言葉に従ったことが描かれています。

「深いところ」とは、私たちにとって未知の場所を意味します。ペテロは夜通し働きましたが何一つ捕れませんでした。「しかしお言葉ですから網を下ろしてみましょう。」ペテロの信仰は、ペテロがイエスの言葉「深みに漕ぎ出しなさい」という言葉に従い、予想外の成果を出したからです。イエスの臨在に触れたからです。イエスの「神の言葉」によって展開される「神の摂理」の力に触れたのです。それはペテロがイエスとの応答のなかで新たな段階に入ったことを意味します。自分を「罪人」と認識することは、「自分を知る」ということにほかなりません。「自分を知る」ということは、神との出会いにおいて開かれるのです。



ここで、ペテロはなぜイエスとの出会いの中で神を見たのでしょうか。

イエスの言葉「深みに漕ぎだしなさい」と言うことばです。漁師のプロであるペテロに「深みに漕ぎ出しなさい」と言うことばは、常識では考えられないことでした。私達も長年、自分の経験や仕事の中で生きています。すなわち、習慣、経験などによって毎日の生活を営んでいます。

信仰生活は、人知を超えた神の力、働きに触れなければなりません。そこから信仰は始まるのです。私たちの信仰生活において、世の常識を疑うこと、御言葉に聴き従う従順さとビジョンに向けた挑戦が必要なのです。私たちは、神の力を知らず、神の言葉を思想化して、キリスト教の教えだとか、こうすべきだということだけを言っている。

神は生きて働いておられる。神の約束は間違いはありません。「その通りにした」という信仰の飛躍、御言葉に聴従することによってのみ、私たちの信仰生活は開かれて行くのです。私たちも、今おかれたところから、もう一つ次なるステージへ向かい、私たちをどのようなものへ造り変えてくださるかを、期待して踏み出していかうではありませんか。

「深みに漕ぎ出して網をおろす。」その時ペテロは思いがけない大漁に会います。しかしそれだけではありません。イエスの目的はもっとその先にあったのです。それがペテロをして、人をとる者に変えてくださるためでした。私たちも神の目的に、自分を変えていただきましょう。

.....

謝花寛営先生は2001年8月22日に、ご家族の祈りに支えられて洗礼を受けました。その後信徒聖書学校、伝道学校、神学校を経て昨年牧師となられました。設計事務所の経営を捨てて聖書を語る伝道者となり、今年4月7日に久米めぐみチャペルをスタートされました。大きな神の恵みであると感謝し、主のみ名を賛美します。